

2-7-3 網走中部森林管理署

表 2-7-3 の 20 調査地について記載した。

表 2-7-3 網走中部森林管理署の調査地一覧

No	エリア プロット	SPUE 2009	SPUE 累積	地形	林相	林床植生	毎木 区数	稚樹 区数	樹皮剥ぎ		食痕率		
									小径 木	大径 木	下 枝	稚 樹	サ サ
36	網走中01	2.4	3.7	山地斜面	針広混交林	トドマツ	1	1	0%	0%	9%	45%	0%
37	網走中02	2.4	3.7	山地斜面	広葉樹林(ミズナラ-エゾイタヤ)	クマイザサ	1	1	0%	0%	9%	35%	0%
38	網走中03	1.6	2.7	斜面	広葉樹林(エゾイタヤ)	クマイザサ	1	1	0%	7%	29%	42%	5%
39	網走中04	6.2	2.9	山地斜面	針広混交林	クマイザサ	1	1	12%	27%	61%	78%	31%
40	網走中05	2.6	2.8	山地斜面	針広混交林	クマイザサ	1	4	0%	0%	13%	11%	0%
41	網走中06	3.7	2.7	山地斜面	広葉樹林(ミズナラ-エゾイタヤ)	クマイザサ	1	2	0%	0%	7%	27%	5%
42	網走中07	2.3	3.2	山地斜面	広葉樹林(アカイタヤ)	クマイザサ	1	1	3%	0%	12%	21%	0%
43	網走中08	-	1.9	山地尾根	広葉樹(ミズナラ-エゾイタヤ)	ハウチワカエデ	1	1	6%	3%	3%	3%	0%
44	網走中09	3.4	2.9	山地尾根	針広混交林	クマイザサ	1	2	0%	8%	19%	35%	0%
45	網走中10	2.5	3.4	山地斜面	針広混交林	オシダ	1	1	7%	6%	19%	21%	0%
46	網走中11	7.0	2.8	平地	針広混交林	クマイザサ	1	1	0%	0%	0%	0%	0%
47	網走中12	0.3	4.2	山地斜面	針広混交林	クマイザサ	2	2	0%	3%	8%	21%	0%
48	網走中13	5.1	4.4	斜面	針広混交林	クマイザサ	2	4	50%	15%	27%	33%	40%
49	網走中14	6.2	4.1	斜面	広葉樹林	クマイザサ	1	2	13%	10%	0%	32%	70%
50	網走中15	3.2	2.8	山地斜面	広葉樹(ハルニレーヤチダモ)	クマイザサ	2	4	0%	3%	0%	0%	0%
51	網走中16	5.3	3.3	山地斜面	広葉樹(ハルニレーヤチダモ)	ヨブスマソウ	1	1	6%	17%	73%	71%	0%
52	網走中17	7.2	4.4	斜面下部	針広混交林	クマイザサ	1	4	17%	27%	25%	67%	60%
53	網走中18	13.4	5.5	斜面下部	広葉樹林	クマイザサ	2	4	0%	11%	0%	-	70%
54	網走中19	3.8	5.7	尾根	針広混交林	トドマツ	1	1	18%	17%	33%	60%	50%
55	網走中20	2.8	3.4	山地尾根	広葉樹(シナノキ-エゾイタヤ)	クマイザサ	1	4	3%	16%	0%	30%	15%

網走中部01の結果概況

地区名:AC01常呂

209林班ほ小班

8月09日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	山地斜面	北東	1	1	2009年 2.4	累積 3.7	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	137 /200㎡	61.1 ㎡/ha	57 /200㎡ 食痕: 5/57 9%		50 /200㎡	0/103 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床 種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]	
	22 /200㎡	5/11 45%	24		7%・50.9・0%	0.19・0.13(4.7)・0.03	

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(㎡)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
トドマツ	28	5,962	14	
シナノキ	3	1,547		
ウダイカンバ	6	1,447		
ミズナラ	9	878	6	
アカイタヤ	32	877	15	
全体	137	12,226	71	

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	51	
シウリザクラ	6	5
エゾマツ	4	
アカエゾマツ	1	
エゾイタヤ	1	
全体	67	5

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(㎡/㎡)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
トドマツ	9	0.122	16.5	65.1	
クマイザサ	12	0.037	7.1	50.9	
シウリザクラ	1	0.009	1.0	92.0	○
マイヅルソウ	13	0.006	4.1	11.5	
ツルウメモドキ	8	0.005	1.5	26.0	
全体		0.191	30.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区網走中部01は、幌岩山展望台へ向かう道道沿いに位置する針広混交林に設定している。斜面地形で、針葉樹はトドマツやエゾマツ、広葉樹はシナノキやウダイカンバなどが見られる。可食種のうち下枝がある立木はミズナラ、アカイタヤなど57本/200㎡あり、そのうち9%に食痕が見られる。樹皮剥ぎは確認されなかった。

稚樹はシウリザクラ、エゾイタヤなど22本/200㎡と少ないが、そのうちの45%に食痕率が見られる。林床は、全体被度が30%と比較的薄く、トドマツが優占する。他にはクマイザサやシウリザクラなどが見られ、シウリザクラに食痕が見られる。ササ類を除く可食種の現存量は0.03と小さく、忌避種は可食種の4倍程である。樹皮剥ぎは見られないものの、下枝の食痕はわずかにあり、稚樹の食痕は40%を越えることから、全体にエゾシカの被食による影響が出始めていると思われる。

網走中部02の結果概況

地区名:AC01常呂

2080林班ぬ小班

7月28日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPU 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹(ミズナラ-エゾイタヤ)		山地斜面	南東	1	1	2009年 2.4	累積 3.7	足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	73 /200㎡	45.8 m ² /ha	33 /200㎡	食痕: 3/33	9%	29 /200㎡	0/67	0%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]
	68 /200㎡	12/34	35%			24	47%・60.6・0%	

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ミズナラ	6	4,370	2	
トドマツ	6	1,420	4	
ハウチワカエデ	36	1,324	21	
エゾイタヤ	11	767	4	
アズキナシ	1	556		
全体	73	9,165	37	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ハリギリ	9	
シナノキ	5	5
トドマツ	5	
エゾイタヤ	4	3
キタコブシ	4	
全体	39	12

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(m ² /m ²)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	20	0.294	46.5	60.6	
イブキヌカボ	4	0.006	1.6	40.5	
オシダ	1	0.006	2.0	30.0	
マイヅルソウ	7	0.004	3.8	9.4	
クルマバソウ	9	0.004	1.8	17.7	
全体		0.321	56.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区網走中部02は、尚和線林道から分岐する作業道沿いに位置する広葉樹林に設定している。山地斜面で、ミズナラやハウチワカエデなどが見られる。林内では、シカの足跡やシカ道を確認している。下枝がある立木は33本/200㎡で、そのうちの9%に食痕が見られる。樹皮剥ぎは確認されなかった。

稚樹はハリギリやシナノキなど68本/200㎡が生育し、そのうち35%に食痕が見られる。林床は、全体被度が56.0%で、クマイザサの被度が45%を越え優占する。食痕はアズキナシ、エゾイタヤなどに見られる。可食種の現存量、忌避種ともに小さく同程度である。樹皮剥ぎは確認されないものの、シカ道が見られ、下枝の食痕もわずかにあり、稚樹食痕率は30%を越えることから、全体にエゾシカの被食による影響が出始めていると思われる。

網走中部03の結果概況

地区名:AC01常呂

2208林班い小班

7月29日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(エゾイタヤ)		斜面	西	1	1	2009年 1.6	累積 2.7	足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	72 /200㎡	36.1 ㎡/ha	38 /200㎡	食痕: 11/38 29%	42 /200㎡	2/68	3%(3%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]
	66 /200㎡	14/33	42%		24	44%	・72.4・ 5%	0.39 ・0.02(1.3)・ 0.02

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(㎡)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
シラカンバ	3	1,982		
ミズナラ	2	1,620	1	
ウダイカンバ	1	892		
サワシバ	6	887	4	
エゾイタヤ	32	772	16	
全体	72	7,225	38	2

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ハウチワカエデ	14	11
サワシバ	4	
ミズナラ	4	
エゾイタヤ	3	1
ヤマグワ	2	1
全体	33	14

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(㎡/㎡)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	20	0.347	43.5	72.4	○
ヒメカンスゲ	8	0.015	5.6	28.8	
オクノカンスゲ	8	0.008	3.3	23.0	
ハウチワカエデ	6	0.004	0.9	31.7	○
イヌエンジュ	2	0.004	0.5	79.5	
全体		0.389	53.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区網走中部03は、日吉学校の沢林道1の沢線沿いに位置する広葉樹林に設定している。斜面地形で、シラカンバやミズナラなどが見られる。林内ではシカの足跡、シカ道を確認している。下枝がある立木はエゾイタヤを中心に38本/200㎡で、そのうち29%に食痕が見られる。

稚樹はハウチワカエデを中心に14本/200㎡と少ないが生育し、そのうち42%に食痕が見られる。林床は全体被度が53%で、クマイザサが優占し、ササ類食痕率は10%を占める。他に、忌避種とされるヒメカンスゲやオクノカンスゲ、可食種のハウチワカエデやイヌエンジュなどが散生し、ハウチワカエデに食痕が見られる。ササ類を除く可食種の現存量、忌避種ともに0.02と小さい値である。シカ道が確認され、下枝食痕率は30%近く見られ、稚樹食痕率も40%を越え、新規の樹皮剥ぎがわずかに見られることから、全体にエゾシカの被食による影響が出始めていると思われる。

網走中部04の結果概況

地区名:AC01常呂

2273林班む小班

7月29日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		山地斜面	西	1	1	2009年 6.2	累積 2.9	足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	78 /200㎡	27.4 ㎡/ha	41 /200㎡ 食痕: 25/41 61%			37 /200㎡	13/67 19%(4%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]
	46 /200㎡	18/23	78%		44	16%・51.6・31%		0.19・0.07(2.1)・0.03

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(㎡)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
トドマツ	11	1,435	6	2
シナノキ	13	680	7	4
エゾイタヤ	30	674	22	2
ミズキ	2	635		1
ホオノキ	5	517	2	2
全体	78	5,478	47	15

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

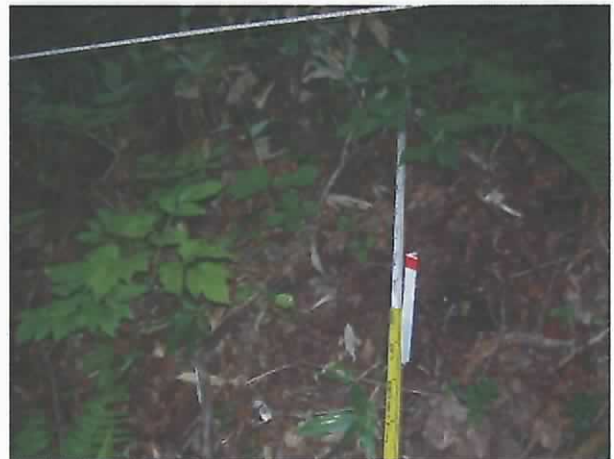
稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	7	1
アオダモ	4	4
エゾイタヤ	4	3
シナノキ	4	4
ハクウンボク	4	3
全体	30	19

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(㎡/㎡)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	16	0.093	16.3	51.6	○
オシダ	9	0.026	7.0	31.1	○
サラシナショウマ	8	0.015	3.4	37.4	○
トドマツ	2	0.008	1.0	44.5	
クルマバソウ	16	0.008	3.1	16.6	
全体		0.190	41.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区網走中部04は、忠福林道沿いに位置する針広混交林に設定している。山地斜面で、針葉樹はトドマツ、広葉樹はシナノキやエゾイタヤなどが見られる。林内ではシカの足跡、シカ道を確認している。可食種のうち下枝がある立木はシナノキやエゾイタヤを中心に41本/200㎡と比較的多く、そのうち61%に食痕が見られる。樹皮剥ぎは古い樹皮剥ぎを含めると19%と高い割合である。

稚樹は、広葉樹ではアオダモやエゾイタヤなど46本/200㎡見られ、食痕率は78%を占める。これは留萌南部森林管理署管内の詳細影響調査地では最も高い食痕率である。林床は、全体被度が41.5%で、クマイザサが優占し、ササ類食痕率は30%を超える。他に林床ではオシダやサラシナショウマで食痕が見られる。可食種、忌避種とも現存量は小さいが、可食種は忌避種の半分ほどの現存量である。下枝、稚樹の食痕が60%を越え、新旧の樹皮剥ぎ率が20%近く見られることから、全体にエゾシカの被食による影響が強くなってきていると思われる。

網走中部05の結果概況

地区名:AC01常呂

2287林班い小班

7月30日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		山地斜面	西	1	4	2009年 2.6	果積 2.8	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	47 /200m ²	50.5 m ² /ha	24 /200m ²	食痕: 3/24	13%	19 /200m ²	0/41	0%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ² /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	10 /200m ²	2/19	11%		10	65%・74.8・0%	0.53	・0.03(2.9)・0.01

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
トドマツ	6	4,300	3	
エゾイタヤ	14	1,812	7	
シナノキ	9	1,773	3	
キタコブシ	1	1,238		
オオバボダイジュ	2	602	1	
全体	47	10,102	27	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ハシドイ	11	
エゾイタヤ	6	1
シウリザクラ	2	1
トドマツ	2	
全体	21	2

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高	食痕有無
クマイザサ	20	0.491	65.0	74.8	
フッキソウ	19	0.029	9.7	23.7	
ハシドイ	3	0.009	1.0	37.7	
サハリナイトスゲ	3	0.001	0.6	15.0	
ミヤマタタビ	3	0.001	0.8	10.0	
全体		0.531	69.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区網走中部05は、平安林道沿いに位置する針広混交林に設定している。山地斜面で、針葉樹はトドマツ、広葉樹はエゾイタヤ、シナノキなどが多く見られる。可食種のうち下枝がある立木はエゾイタヤ、シナノキなど24本/200m²で、そのうち13%に食痕が見られる。樹皮剥ぎは確認されなかった。

稚樹はハシドイやエゾイタヤなど10本/200m²で、エゾイタヤ、シウリザクラに1本ずつ食痕が見られ、11%を占める。林床は、全体被度が69.5%を占め、クマイザサが優占する。食痕はササ類は確認されず、ツリバナで一部見られる。ササを除く現存量は、可食種は0.01で、忌避種は0.03でいずれも小さい値である。樹皮剥ぎは見られず、下枝や稚樹の食痕率も10%程で、全体にエゾシカの影響はほとんど見られないと思われる。

網走中部06の結果概況

地区名:AC02仁頃

2226林班し小班

7月30日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹(ミズナラ-エゾイタヤ)		山地斜面	南東	1	2	2009年 3.7	累積 2.7	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	48 /200㎡	36.6 ㎡/ha	30 /200㎡	食痕: 2/30 7%	17 /200㎡	0/44	0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]	
	33 /200㎡	9/33	27%		30	67%・83.1・5%	0.74	・0.13(4.3)・

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(㎡)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
カラマツ	4	3,544		
ヤチダモ	7	1,472	1	
ミズナラ	5	1,224	3	
カツラ	5	439	3	
ハシドイ	8	266	5	
全体	48	7,317	30	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ハシドイ	14	4
シウリザクラ	6	2
オヒョウ	5	1
サワシバ	4	1
ヤマグワ	2	
全体	33	9

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(㎡/㎡)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	20	0.584	67.0	83.1	○
エゾイラクサ	4	0.069	4.5	154.5	
フッキソウ	19	0.049	18.3	25.5	
コンロンソウ	18	0.014	4.1	28.6	
ハシドイ	4	0.013	1.8	55.3	○
全体		0.743	80.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植生率の値。



調査区網走中部06は、北陽林道沿いに位置する広葉樹林に設定している。山地斜面で、針葉樹はカラマツ、広葉樹はヤチダモやミズナラなどが見られる。可食種のうち下枝がある立木は30本/200㎡と比較的多く、そのうち7%に食痕が見られる。樹皮剥ぎは確認されなかった。

稚樹はハシドイ、シウリザクラなど33本/200㎡が生育し、食痕はハシドイを中心に27%見られる。林床は、全体被度が80.0%で、クマイザサが優占する。食痕はクマイザサ、ハシドイで見られ、ササ類食痕率は5%を占める。ササを除く現存量は、可食種は0.03と小さく、忌避種はその4倍程の0.13と大きい。稚樹食痕率は20%を越えるが、下枝食痕率はわずかで、樹皮剥ぎは見られないことから、全体にエゾシカの影響はほとんど見られないと思われる。

網走中部07の結果概況

地区名:AC02仁頃

2063林班ろ小班

8月08日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(アカイタヤ)		山地斜面	西	1	1	2009年 2.3	累積 3.2	糞・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	80 /200㎡	41.8 m ² /ha	43 /200㎡	食痕: 5/43	12%	38 /200㎡	1/75	1%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	76 /200㎡	8/38	21%		23	46%・64.9・0%	0.34	・0.01(1.0)・0.01

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
シラカンバ	4	2,182		
オオバボダイジュ	3	1,835		
ハリギリ	3	1,759	1	
エゾイタヤ	18	943	11	
アカイタヤ	21	808	10	
全体	80	8,368	44	1

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ハウチワカエデ	13	3
イヌエンジュ	6	
ミズナラ	6	
エゾイタヤ	5	1
アカイタヤ	3	
全体	39	8

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(m ³ /m ²)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	20	0.313	46.0	64.9	
ヒメカンスゲ	9	0.008	4.9	15.2	
マイヅルソウ	17	0.006	5.0	11.3	
ツタウルシ	7	0.005	3.0	16.7	
サラシナショウマ	1	0.001	0.5	27.0	
全体		0.341	56.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区網走中部07は、共立峠林道沿いに位置する広葉樹林に設定している。山地斜面で、シラカンバやオオバボダイジュなどが見られる。林内には、シカの糞やシカ道を確認している。下枝がある立木はエゾイタヤ、アカイタヤを中心に43本/200㎡あり、食痕は12%に見られる。樹皮剥ぎは古い樹皮剥ぎのみで、ハクウンボクに1本見られ、1%を占める。

稚樹はハウチワカエデを中心に76本/200㎡が生育し、食痕はハウチワカエデやエゾイタヤなど21%に見られる。林床は全体被度が56.5%で、クマイザサが優占し、他に忌避種とされるヒメカンスゲやツタウルシ、可食種のマイヅルソウやサラシナショウマが散生する。ササを除く現存量は、可食種、忌避種ともに0.01と小さく同程度である。下枝食痕率が10%ほどであり、稚樹食痕率も20%を越え、樹皮剥ぎがわずかに見られることから、全体にエゾシカの被食による影響が出始めていると思われる。

網走中部08の結果概況

地区名:AC02仁頃

2029林班よ小班

7月28日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
広葉樹(ミズナラ-エゾイタヤ)		山地尾根	西	1	1	2009年	-	累積 1.9	シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	68 /200㎡	32.1 m ² /ha	31 /200㎡	食痕: 1/31	3%	35 /200㎡	3/68	4%(3%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	288 /200㎡	4/144	3%			35	0%	-	-

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(c㎡)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
イヌエンジュ	8	2,592		
ミズナラ	2	1,303		
エゾイタヤ	12	952	6	
アズキナシ	12	791	4	1
アカイタヤ	3	341		
全体	68	6,415	31	3

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
アオダモ	33	
エゾイタヤ	33	
ミズナラ	20	1
ハウチワカエデ	19	2
アズキナシ	11	1
全体	146	4

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(m ² /m ²)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
ハウチワカエデ	11	0.097	9.3	74.3	○
ミヤマガマズミ	5	0.085	8.3	82.4	
アオダモ	18	0.039	5.7	37.2	
エゾイタヤ	18	0.024	4.6	32.1	
ミズナラ	16	0.023	3.6	31.2	
全体		0.365	51.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区網走中部08は、栃木林道沿いに位置する広葉樹林に設定している。山地尾根で、イヌエンジュやミズナラなどが見られる。林内には、シカ道を確認している。可食種のうち下枝がある立木はエゾイタヤ、アズキナシなど31本/200㎡あり、食痕は3%に見られる。樹皮剥ぎは古い樹皮剥ぎも含めると4%を占める。

稚樹はアオダモ、エゾイタヤを中心に、288本/200㎡と高密度に生育し、食痕はミズナラやハウチワカエデなど3%に見られる。林床は、全体被度が51.5%で、各出現種の被度は低いが、木本類が優占する。食痕はハウチワカエデに見られる。可食種の現存量は0.34と大きく、忌避種の10倍以上を占める。シカ道が見られ、下枝、稚樹、林床の食痕や新規の樹皮剥ぎがわずかに見られることから、全体にエゾシカの被食による影響が出始めていると思われる。

網走中部09の結果概況

地区名:AC02仁頃

2242林班あ小班

7月31日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		山地尾根	南	1	2	2009年 3.4	累積 2.9	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	65 /200㎡	32.2 ㎡/ha	31 /200㎡	食痕: 6/31	19%	27 /200㎡	3/59	5%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡ [全体・忌避種・可食種]	
	23 /200㎡	8/23	35%		20	75%・85.8・0%	0.68	・0.00(0.0)・ 0.04

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥(本)
キハダ	2	1,253		1
エゾイタヤ	29	968	18	1
ダケカンバ	1	804		
シナノキ	9	625	5	1
トドマツ	4	592	3	
全体	65	6,434	35	3

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	食痕あり(本)
エゾイタヤ	10	3
シナノキ	4	3
イヌエンジュ	3	1
トドマツ	3	
ハウチワカエデ	3	1
全体	26	8

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (㎡/㎡)	被度 (%)	平均高	食痕有無
クマイザサ	20	0.643	74.5	85.8	
エゾイタヤ	3	0.015	2.5	44.3	
ヤマグワ	1	0.012	1.0	121.0	
チョウセンゴミシ	13	0.003	2.4	13.1	
サラシナショウマ	3	0.003	0.8	29.3	
全体		0.685	76.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区網走中部09は、美里林道沿いに位置する針広混交林に設定している。山地尾根で、キハダやエゾイタヤなどが見られる。可食種のうち下枝がある立木はエゾイタヤを中心に 31 本/200 ㎡あり、食痕は 19%に見られる。樹皮剥ぎは古い樹皮剥ぎのみでキハダやエゾイタヤなど 5%に見られる。

稚樹はエゾイタヤやシナノキなど 23 本/200 ㎡が生育し、食痕は 35%と高い割合で見られる。林床は、全体被度が 76.0%で、クマイザサが 70%を越え優占し、エゾイタヤやヤマグワなどが散生する。食痕はエゾノサワアザミ、アキノキリンソウに見られる。ササを除く現存量は可食種で 0.04、忌避種はツタウルシやムカゴイラクサなどが散生するが 0 に近い値である。新規の樹皮剥ぎは確認されなかったものの、下枝食痕率が 20%程見られ、稚樹食痕率は 30%越えることから全体にエゾシカの被食による影響が出始めていると思われる。

網走中部10の結果概況

地区名:AC02仁頃

2074林班い小班

7月21日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		山地斜面	南	1	1	2009年 2.5	累積 3.4	糞・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	62 /200㎡	45.5 m ² /ha	21 /200㎡ 食痕: 4/21 19%			23 /200㎡	2/50 4%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 m ² /m ² [全体・忌避種・可食種]
	96 /200㎡	10/48	21%		45	3%・50.8・0%		0.15・0.12(9.5)・0.01

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥(本)
トドマツ	10	3,696	6	2
オヒョウ	1	2,376		1
シウリザクラ	16	1,066	5	1
シナノキ	4	691	1	
ハクウンボク	1	330		
全体	62	9,092	29	4

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	食痕あり(本)
トドマツ	17	
シウリザクラ	16	8
ヤマモミジ	10	1
キタコブシ	8	
ハシドイ	4	1
全体	65	10

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高	食痕有無
オシダ	13	0.056	13.3	37.2	○
ツタウルシ	14	0.029	13.7	19.2	○
サハリナイトスゲ	13	0.017	9.5	17.6	
クマイザサ	4	0.013	2.5	50.8	
シラネワラビ	12	0.010	4.1	18.9	
全体		0.149	45.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区網走中部10は、金山林道から分岐する大金穂林道沿いに位置する針広混交林に設定している。山地斜面で、針葉樹はトドマツ、広葉樹はオヒョウ、シウリザクラなどが見られる。林内では、シカの糞、シカ道を確認している。下枝がある立木はシウリザクラ、シナノキなど21本/200㎡あり、そのうち19%に食痕が見られる。樹皮剥ぎは古い樹皮剥ぎのみで4%に見られる。

稚樹は、シウリザクラなど96本/200㎡と高密度に生育し、21%に食痕が見られる。林床は、全体被度が45.0%を占め、忌避種であるオシダやツタウルシ、スゲ類、シダ類が目立つ。食痕はオシダ、ツタウルシに見られる。ササを除く現存量は可食種で0.01とわずかで、忌避種は0.12と可食種の10倍以上を占める。シカ道や糞が見られ、下枝、稚樹の食痕は20%程であり、樹皮剥ぎがわずかに見られることから、全体にエゾシカの被食による影響が出始めていると思われる。

網走中部11の結果概況

地区名:AC02仁頃

2047林班ち小班

7月31日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		平地	-	1	1	2009年 7	累積 2.8	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	42 /200㎡	63.1 ㎡/ha	18 /200㎡ 食痕: 0/18 0%			15 /200㎡	0/27 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]	
	50 /200㎡	0/25 0%			41	15%・68.6・0%	0.35・0.18(3.8)・0.05	

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
トドマツ	10	4,673	6	
エゾマツ	3	3,565	2	
シラカンバ	2	1,866		
ヤマモミジ	3	1,361	1	
オヒョウ	2	344	1	
全体	42	12,619	26	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	37	
シナノキ	13	
エゾイタヤ	2	
キタコブシ	2	
シウリザクラ	2	
全体	62	

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (㎡/㎡)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	9	0.117	14.8	68.6	
オシダ	6	0.050	8.1	48.8	
フッキソウ	18	0.050	19.1	24.8	○
トドマツ	9	0.020	3.8	38.3	
ツタウルシ	13	0.020	6.5	26.6	
全体		0.349	58.8		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区網走中部11は、丸山林道沿いに位置する針広混交林に設定している。平地で、針葉樹はトドマツやエゾマツ、広葉樹はシラカンバやヤマモミジなどが見られる。可食種で下枝がある立木はヤマモミジやオヒョウなど18本/200㎡で、下枝食痕、樹皮剥ぎは見られない。

稚樹は、広葉樹ではシナノキを中心に50本/200㎡が生育し、食痕は確認されなかった。林床は、全体被度が58.8%で、出現種数が41種と多く、種別の被度は低い。忌避種とされるオシダやフッキソウ、トドマツ、ツタウルシなどが散生し、食痕はフッキソウに見られる。現存量は、可食種で0.05とわずかにあり、忌避種はその3倍以上で、0.18と比較的大きい。下枝、稚樹の食痕、樹皮剥ぎは確認されず、全体にエゾシカの影響はほとんど見られないと思われる。

網走中部12の結果概況

地区名:AC02仁頃

2254林班の小班

7月22日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		山地斜面	北	2	2	2009年 0.3	累積 4.2	足跡
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	21 /200㎡	33.8 m ² /ha	7 /200㎡ 食痕: 1/7 8%			2.5 /200㎡	0/29 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床 種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ² /m ² [全体・忌避種・可食種]		
	24 /200㎡	5/24	21%		19	67%・82.1・0%	0.59・0.02(0.7)・0.02	

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ケヤマハンノキ	5	3,952	3	
シナノキ	13	3,934	3	
トドマツ	6	1,902	2	1
オヒョウ	2	1,456		
ダケカンバ	4	1,164	2	
全体	41	13,518	17	1

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
シウリザクラ	20	4
オヒョウ	3	
シナノキ	1	1

全体	24	5
----	----	---

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(m ² /m ²)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	20	0.551	66.5	82.1	
トガスグリ	9	0.012	4.3	19.0	
ムカゴイラクサ	7	0.010	3.2	21.6	
シウリザクラ	3	0.007	0.8	63.7	
シラネワラビ	6	0.004	1.3	24.8	
全体		0.591	74.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区網走中部12は、相内林道沿いに位置する針広混交林に設定している。山地斜面で、針葉樹はトドマツ、広葉樹はケヤマハンノキやシナノキなどが見られる。林内ではシカの足跡を確認している。可食種で下枝がある立木はケヤマハンノキやシナノキなど7本/200㎡と少なく、8%に食痕が見られる。樹皮剥ぎは確認されなかった。

稚樹はシウリザクラを中心に24本/200㎡が生育し、そのうち21%に食痕が見られる。林床は、全体被度が74%で、クマイザサの被度が65%を越え優占し、密生する。他にトガスグリやムカゴイラクサなどが散生する。食痕は確認されなかった。ササ類を除く現存量は、可食種、忌避種ともに0.02とわずかである。エゾシカの足跡が確認され、稚樹の食痕率は20%を越えるが、下枝の食痕はわずかで、樹皮剥ぎは確認されず、全体にエゾシカの影響はほとんど見られないと思われる。

網走中部13の結果概況

地区名: AC03温根湯 1017林班は小班

7月13日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		斜面	南西	2	4	2009年 5.1	累積 4.4	足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	25 /200㎡	44.9 ㎡/ha	13 /200㎡ 食痕: 4/13 27%			5 /200㎡	11/46 24%(17%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]	
	5 /200㎡	3/9 33%			22	78%・96.0・40%	0.80・0.05(10.0)・0.00	

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
エゾマツ	1	4,536		
ハルニレ	1	4,301		
ケヤマハンノキ	2	2,386	2	
シナノキ	2	1,544		
ハシドイ	26	1,508	14	10
全体	49	17,959	28	11

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ハシドイ	6	3
オヒョウ	2	
ハルニレ	1	
全体	9	3

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (㎡/㎡)	被度 (%)	平均高	食痕有無
クマイザサ	20	0.750	77.5	96.0	○
オシダ	3	0.029	3.5	57.0	
フッキソウ	12	0.016	5.4	25.8	
トガスグリ	3	0.003	1.1	20.3	
クルマバソウ	6	0.002	1.1	18.7	
全体		0.804	86.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区網走中部13は、小松沢林道沿いに位置する針広混交林に設定している。斜面地形で、針葉樹はエゾマツ、広葉樹はハルニレやケヤマハンノキなどが見られる。林内ではシカの足跡やシカ道を確認している。下枝がある立木はハシドイを中心に13本/200㎡と比較的少なく、そのうち食痕は27%を占める。樹皮剥ぎは古いものを含めると24%を占める。

稚樹は、ハシドイやオヒョウなど5本/200㎡と少なく、そのうちハシドイに食痕が見られ、33%を占める。林床は、全体被度が86%を占め、クマイザサが優占し、密生する。クマイザサは食痕も見られ、ササ類食痕率では40%を占める。ササを除く現存量は、可食種では0.01未満とわずかで、忌避種は0.05と可食種より大きいにもかかわらずである。シカ道が確認され、下枝、稚樹、ササ類食痕率、新規樹皮剥ぎ率、忌避種の割合が高く見られることから、全体にエゾシカの被食による影響が累積している可能性があると思われる。

網走中部14の結果概況

地区名:AC03温根湯 1019林班ろ小班

7月14日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		斜面	南西	1	2	2009年 6.2	累積 4.1	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	58 /200㎡	30.5 m ² /ha	26 /200㎡ 食痕: 0/26 0%			12 /200㎡	6/46 13%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ² /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	22 /200㎡	7/22 32%	13				81%・83.8・70%	0.71・0.00(0.0)・0.03

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ミズナラ	4	1,553	3	
ウダイカンバ	1	750		
オオバボダイジュ	9	739	5	4
トドマツ	6	583	5	
エゾイタヤ	12	482	8	
全体	58	6,101	36	6

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
シナノキ	8	3
ハウチワカエデ	8	1
アカエゾマツ	2	
オオバボダイジュ	2	2
オガラパナ	2	
全体	24	7

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	20	0.680	80.5	83.8	○
シナノキ	1	0.022	1.5	144.0	○
オオカメノキ	1	0.003	0.5	56.0	
ノリウツギ	1	0.000	0.1	81.0	
マイヅルソウ	1	0.000	0.3	5.0	
全体		0.705	82.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区網走中部14は、小松沢林道沿いに位置する広葉樹林に設定している。斜面地形で、針葉樹はトドマツ、広葉樹はミズナラやウダイカンバなどが見られる。下枝がある立木はミズナラやオオバボダイジュなど26本/200㎡で、食痕は見られない。樹皮剥ぎは古いもののみで、オオバボダイジュを中心に13%を占める。

稚樹はシナノキやハウチワカエデなど22本/200㎡が生育し、食痕率は32%である。林床は、全体被度が82.5%を占め、クマイザサが優占する。ササ類食痕率は70%を占め、これは網走中部森林管理署管内の詳細影響調査地で最も高い。ササを除く現存量は、可食種は0.03、忌避種は0.00でいずれもわずかである。下枝食痕は見られないものの、稚樹、ササ類の食痕率、樹皮剥ぎ率からみて、全体にエゾシカの被食による影響が出始めていると思われる。

網走中部15の結果概況

地区名:AC03温根湯 7林班の小班

7月20日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹(ハルニレ-ヤチダモ)		山地斜面	北西	2	4	2009年 3.2	累積 2.8	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	33 /200㎡	35.3 ㎡/ha	12 /200㎡	食痕: 0/12	0%	1.5 /200㎡	1/54	2%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床 種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]		
	2 /200㎡	0/4	0%			11	82%・92.4・0%	0.78

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(㎡)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ハルニレ	26	5,767	18	1
ヤチダモ	10	3,003		
トドマツ	8	1,700	7	1
ケヤマハンノキ	4	1,694	1	
シラカンバ	4	703		
全体	66	14,130	30	2

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
シウリザクラ	2	
ケヤマハンノキ	1	
トドマツ	1	
ヤチダモ	1	
全体	5	

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(㎡/㎡)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	20	0.761	82.0	92.4	
フッキソウ	16	0.013	5.7	22.6	
エゾイラクサ	7	0.006	0.6	60.7	
サッポロスゲ	1	0.001	0.3	29.0	
シウリザクラ	1	0.000	0.1	39.0	
全体		0.780	84.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区網走中部15は、湯の影林道湯の里線沿いに位置する針広混交林に設定している。山地斜面で、針葉樹はトドマツ、広葉樹はハルニレやヤチダモが多く見られる。可食種のうち下枝がある立木は12本/200㎡生育し、食痕は確認されなかった。樹皮剥ぎは古いもののみで、2%に見られる。

稚樹はシウリザクラやケヤマハンノキなど2本/200㎡と少なく、食痕は確認されなかった。林床は、全体被度が84.0%で、クマイザサが優占し、密生する。他に、忌避種とされるフッキソウ、エゾイラクサ、サッポロスゲなどが散生する。食痕は確認されなかった。ササを除く現存量は、可食種、忌避種ともにわずかである。古い樹皮剥ぎがわずかに見られるものの、下枝、稚樹、林床の食痕は確認されず、全体にエゾシカの影響はほとんど見られないと思われる。

網走中部16の結果概況

地区名:AC03温根湯 10林班ね小班

7月19日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹(ハルニレーヤチダモ)		山地斜面	南西	1	1	2009年 5.3	累積 3.3	糞
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	30 /200㎡	31.2 ㎡/ha	22 /200㎡	食痕: 16/22	73%	18 /200㎡	3/27	11%(4%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]
	96 /200㎡	34/48	71%			50	0%	

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
オヒョウ	5	2,923	2	2
ダケカンバ	2	2,055		
ケヤマハンノキ	1	892		
ヤチダモ	1	209		
ハシドイ	18	94	18	1
全体	30	6,243	23	3

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
ハシドイ	36	30
エゾイタヤ	3	1
サワシバ	3	2
ヤチダモ	2	
オガラバナ	1	1
全体	49	34

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (㎡/㎡)	被度 (%)	平均高	食痕有無
ヨブスマソウ	6	0.053	3.8	79.0	○
ハシドイ	14	0.049	8.2	40.7	○
フッキソウ	19	0.022	11.4	19.5	
サップロスゲ	8	0.012	3.8	31.0	
エナシヒゴクサ	16	0.012	6.4	18.3	
全体		0.210	51.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区網走中部16は、オンネアンジ林道沿いに位置する広葉樹林に設定している。山地斜面で、オヒョウやダケカンバなどが見られる。林内では、シカの糞を確認している。下枝がある立木はハシドイを中心に22本/200㎡あり、食痕は73%を占める。これは網走中部森林管理署管内の詳細影響調査で最も高い。樹皮剥ぎは古いものも含めると11%を占める。

稚樹は、ハシドイを中心に96本/200㎡と高密度に生育するが、食痕率はハシドイを中心に71%と高い。林床は、全体被度が51.0%で、出現種数が50種と多く、各種類の被度は低い。食痕はヨブスマソウやハシドイに見られる。ササ類を除く可食種の現存量は0.09であり、忌避種よりやや少ない値である。下枝、稚樹の食痕率が70%を越え、新規樹皮剥ぎも見られることから、全体にエゾシカの被食による影響が強くなってきていると思われる。

網走中部17の結果概況

地区名:AC04富士見 1044林班ろ小班

7月14日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		斜面下部	北東	1	4	2009年 7.2	累積 4.4	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	47 /200㎡	31.9 ㎡/ha	16 /200㎡	食痕: 4/16	25%	3 /200㎡	12/41	29%(5%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]
	5 /200㎡	6/9	67%		13	59%・87.2・60%	0.60	・0.07(5.4)・0.01

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(㎢)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
シナノキ	16	1,940	9	7
エゾノバッコヤナギ	7	1,836	2	
オニグルミ	4	1,497		
エゾイタヤ	9	344	3	3
ミズナラ	2	317	1	
全体	47	6,389	21	12

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
シナノキ	8	6
トドマツ	4	
アオダモ	1	
全体	13	6

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(㎡/㎡)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	20	0.515	59.0	87.2	○
フッキソウ	19	0.028	11.7	24.5	
オシダ	8	0.025	3.8	68.9	○
エゾイラクサ	5	0.012	2.2	52.0	
サップロスゲ	10	0.008	1.8	33.4	○
全体		0.602	79.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区網走中部17は、カクレ沢林道沿いに位置する針広混交林に設定している。斜面下部で、シナノキが優占する。下枝がある立木はシナノキを中心に16本/200㎡見られ、食痕はシナノキで見られ、25%を占める。樹皮剥ぎは、エゾイタヤに新規が見られ5%を占めるが、古いものも含めると29%を占める。

稚樹はシナノキとアオダモで5本/200㎡と少なく、食痕は67%を占める。林床は、全体被度が79.0%を占め、クマイザサが優占し、密生する。ササ類食痕率は60%見られ、忌避種とされるオシダやサップロスゲにも食痕が見られる。ササ類を除く現存量は、可食種では0.01、忌避種はそれより7倍程高い0.07である。下枝食痕率が20%を越え、稚樹、ササ類食痕率は60%以上に見られ、新規樹皮剥ぎも確認されることから、全体にエゾシカの被食による影響が累積している可能性があると思われる。

網走中部18の結果概況

地区名:AC04富士見 1127林班い小班

7月15日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPU 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		斜面下部	北東	2	4	2009年 13.4	累積 5.5	糞・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	20 /200㎡	29.7 ㎡/ha	6 /200㎡	食痕: 0/6	0%	0.5 /200㎡	4/31	13%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]
	0 /200㎡	0/0	-		6	89%・109.0・70%	0.99	・0.01(490.1)・ 0.00

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ケヤマハンノキ	12	2,634	3	1
キハダ	1	2,411		
ダケカンバ	4	1,931	3	
オヒョウ	3	1,912		3
エゾノバッコヤナギ	3	1,123	1	
全体	39	11,891	14	4

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	4	3
エゾマツ	3	

全体	7	3
----	---	---

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (㎡/㎡)	被度 (%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	20	0.980	88.8	109.0	○
エゾイラクサ	6	0.004	0.7	60.2	
トドマツ	2	0.001	0.1	91.5	○
ヨブスマソウ	1	0.000	0.1	22.0	
ミヤマニガウリ	1	0.000	0.0	73.0	
全体		0.986	89.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区網走中部18は、無加川林道沿いに位置する広葉樹林に設定している。ケヤマハンノキが優占し、他にキハダやダケカンバが見られる。林内には、シカの糞、シカ道を確認している。下枝がある立木はケヤマハンノキなど6本/200㎡と少なく、食痕は確認されなかった。樹皮剥ぎは古いもののみで、13%に見られる。

稚樹の出現種は、忌避種とされるトドマツ、エゾマツで、可食種は見られない。林床は、全体被度が89.0%を占め、クマイザサが優占し、密生する。ササ類食痕率が70%を占め、網走中部森林管理署管内の詳細影響調査地で最も高い値である。ササを除く現存量は、可食種、忌避種ともにわずかである。下枝、稚樹の食痕、新規の樹皮剥ぎは見られないものの、シカ道が見られ、ササ類食痕率は70%を越え、全体にエゾシカの被食による影響が出始めていると思われる。

網走中部19の結果概況

地区名:AC04富士見 61林班へ小班

7月19日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPU 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		尾根	南	1	1	2009年 3.8	累積 5.7	糞・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	41 /200㎡	62.6 m ² /ha	3 /200㎡ 食痕: 1/3 33%			0 /200㎡	1/11 9%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]
	20 /200㎡	6/10 60%		44	0%・23.5・50%		0.21 ・0.20(28.0)・ 0.01	

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
トドマツ	27	6,658	13	6
アカエゾマツ	1	2,706		
ケヤマハンノキ	6	1,417	3	1
ダケカンバ	1	1,035		
ハウチワカエデ	2	466		
全体	41	12,520	17	7

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
トドマツ	32	
ミヤマザクラ	7	4
エゾマツ	4	
エゾイタヤ	2	2
ミズナラ	1	
全体	46	6

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(m ² /m ²)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
トドマツ	18	0.069	9.3	23.3	
フッキソウ	12	0.062	24.5	23.6	○
エゾイラクサ	4	0.026	5.0	51.3	
シラネワラビ	8	0.017	8.3	15.3	
ハクサンシャクナゲ	4	0.009	2.3	41.0	
全体		0.205	59.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区網走中部19は、常呂川上流部に位置する針広混交林に設定している。尾根で、針葉樹はトドマツやアカエゾマツ、広葉樹はケヤマハンノキやダケカンバなどが見られる。林内には、シカの糞やシカ道を確認している。可食種の下枝がある立木はケヤマハンノキで3本/200㎡あり、そのうちの1本に食痕が見られる。樹皮剥ぎもケヤマハンノキに見られ、9%を占める。

稚樹はミヤマザクラやエゾイタヤなど20本/200㎡が生育し、60%に食痕が見られる。林床は、全体被度が59.5%で、出現種数は44種と多い。忌避種とされるトドマツ、フッキソウ、エゾイラクサなどが多く見られ、フッキソウには食痕が見られる。ササ類を除く現存量は、可食種では0.01とわずかで、忌避種が0.20と高い値である。エゾシカの糞やシカ道が確認され、下枝や稚樹、ササ類の食痕率も高い値であることから、全体にエゾシカの被食による影響が強くなってきていると思われる。

網走中部20の結果概況

地区名: AC04富士見 103林班い小班

7月20日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
広葉樹(シナノキ-エゾイタヤ)		山地尾根	南東	1	4	2009年 2.8	累積 3.4	足跡・シカ道・鳴き声	
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	81 /200㎡	47.1 ㎡/ha	26 /200㎡ 食痕: 0/26 0%			31 /200㎡	9/73 12%(1%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 ㎡/㎡[全体・忌避種・可食種]	
	5 /200㎡	3/10	30%			10	83%・79.5・15%	0.67・0.00(1.3)・0.00	

※稚樹は樹高20cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA(㎡)	下枝あり(本)	樹皮剥(本)
ウダイカンバ	5	3,099		
カラマツ	2	1,891		
オオバボダイジュ	14	1,683	4	2
エゾイタヤ	38	929	15	
シナノキ	5	546	2	3
全体	81	9,422	27	9

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり(本)
エゾイタヤ	4	
オオバボダイジュ	3	1
シナノキ	2	2
エゾマツ	1	
トドマツ	1	
全体	12	3

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量(㎡/㎡)	被度(%)	平均高さ	食痕有無
クマイザサ	20	0.662	82.5	79.5	○
フッキソウ	12	0.002	1.4	14.8	
ヤマブドウ	1	0.001	0.3	48.0	
トガスグリ	3	0.000	0.2	29.7	
オニツルウメモドキ	5	0.000	0.1	21.4	
全体		0.666	83.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区網走中部20は、上春日林道沿いに位置する広葉樹林に設定している。山地尾根で、針葉樹はカラマツ、広葉樹はウダイカンバやオオバボダイジュなどが見られる。林内には、シカの足跡やシカ道、調査中に鳴き声も確認している。下枝がある立木はエゾイタヤを中心に26本/200㎡見られ、食痕は見られない。樹皮剥ぎはオオバボダイジュやシナノキに見られ、古いものも含めると12%を占める。

稚樹は、エゾイタヤやオオバボダイジュなど5本/200㎡と少なく、そのうちの30%に食痕が見られる。林床は、全体被度が83.5%を占め、クマイザサが優占し、密生する。他には、忌避種とされるフッキソウや可食種のヤマブドウ、トガスグリなどが散生する。クマイザサに食痕が見られ、ササ類食痕は15%を占める。ササ類を除く可食種の現存量、忌避種ともに0.01未満で、わずかである。下枝の食痕は確認されなかったものの、稚樹の食痕が30%を越え、新規の樹皮剥ぎも見られることから、全体にエゾシカの被食による影響が強くなってきていると思われる。